

日米における障害がある人に対する認識の研究

ローラ・ケテリング
ハナ・リトル

キャップストーン2020年学期
アドバイザー: 齋藤アボット佳子教授・関根繁子教授

概要

- 研究の重要性
- 研究質問
- 研究背景
- 研究方法
- 研究結果
- 結論
- 研究の限界点と将来の課題
- 参考文献
- 謝辞

研究の重要性

ローラ

- 日本に留学した時、留学生の為のカウンセリングがほとんど提供されていなかった事に驚いた
- 障害について自由に話すことができるセーフスペースが必要だと思っている
- 障害に対する日米の大学生の認識が知りたいと思った

ハナ

- 私には障害がある
- 障害がある家族も多い
- CSUMBの障害があるアメリカ人の学生に対する支援が少ない
- 日本に留学した時、大学には障害者サポートセンターがなかった
- この研究を通して、日米の大学にどのようなサポートがあるが調査してみたい

研究質問

研究質問1

日米の大学生の障害がある人に対する見解はどのようなものか

研究質問2

日米の大学生は障害がある人が利用可能な設備や施設についてどの程度理解しているか

研究背景

- 障害とは何？
 - アメリカ
 - 日本
- 身体構造(体の外部) vs. 心身機能(体の内部)
- 調査で述べられた障害の定義
- 調査で述べられた障害の統計的率
 - アメリカ
 - 日本
- 大学の支援の例
 - アメリカ
 - 日本

障害は何？

- アメリカに障害の定義は
 - 「個人の多数の生活活動を相当に制限する身体的または精神的障害」

(ADA
AMENDMENTS ACT
OF 2008, 2008)

- 日本に障害は三つの方法で定義される
 - 身体障害:「四肢(両手両足)に不自由があったり、視覚や聴覚に制限があったりするなど、身体機能に何らかの障害がある状態のことである」
 - 知的障害:「知的な能力に明らかな遅れがあること。学習するとき、社会で生活するとき必要な事柄を理解する、記憶する、判断するといった能力の遅れる。」
 - 精神障害:「統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者である」

(障害者基本法障害者施策—内閣府, 2004)

(身体障害とは?, 2019)

(おしえて! 障害のこと 2020)

(精神障害とは, 2020)

見える障害(体の外部) vs. 見えない障害(体の内部)

- 見える障害は
 - 「肉眼で見えるだけで障害に気づかれる」

(Invisible Vs. Visible Disabilities, 2018)

- 見えない障害は
 - 「外から見えないが、人の動き、感覚、または活動を制限または挑戦する可能性がある身体的、精神的または神経学的状態」

(How do you define invisible disability?, 2017)

調査で述べられた障害の定義

失読症: 学習障害の一種で、知的能力及び一般的な理解能力などに特に異常がないにもかかわらず、文字の読み書き学習に著しい困難を抱える障害である。(Dyslexia, 2017)

糖尿病: 糖尿病は、インスリンが十分に働かないために、血液中を流れるブドウ糖という糖（血糖）が増えてしまう病気です。**1型糖尿病**は、膵臓からインスリンがほとんど出なくなることにより血糖値が高くなります。**2型糖尿病**は、インスリンが出にくくなったり、インスリンが効きにくくなったから血糖値が高くなる。(What is Diabetes?, 2016)

脳性麻痺: 運動や姿勢に影響を与える一連の状態を指する、運動を司る脳の一部分またはそれ以上が損傷すると、人は筋肉を正常に動かすことができなくなる。(What is Cerebral Palsy?, 2019)

ダウン症候群: 体細胞の21番染色体が通常より1本多く存在し、身体的発達の遅延、特徴的な顔つき、軽度の知的障害が特徴である。(What is Down Syndrome?, 2020)

調査で述べられた障害の統計的率

	日本	アメリカ
失読症	総人口の5% (FAQ, 2020)	総人口の5~15% (Dyslexia: What Brain Research Reveals About Reading, 2004)
糖尿病	総人口の7.9% (IDF Western Pacific members, 2020)	総人口の10.5% (Statistics About Diabetes, 2018)
脳性麻痺	1000子供当たり2.27 (Toyokawa, S., Maeda, E. and Kobayashi, Y, 2017)	1000子供当たり3.1 (Christensen, D., Braun, K. V. N., Doernberg, N. S., Moenner, M. J., Arneson, C. L., Durkin, M. S., Yeargin-Allsopp, M, 2008)
ダウン症候群	455出生当たり1 (ダウン症児出生数は横ばい傾向, 2019)	700出生当たり1 (Down Syndrome Facts, 2020)

アメリカ大学の支援: ケーススタディ

- カリフォルニア州立大学モンテレーベイで障害がある人は種類の支援を受けられる:
 - 障害の管理アドバイス
 - 支援技術
 - 教室用家具の代替
 - 障害がある生徒のため殊にキャンパスへのオリエンテーション
 - 別の人ノートを取る
 - 代替フォーマット: 電子テキスト、MP3、テープに録音する本、点字など
 - 代替の試験

(CSUMB, 2020)

日本大学の支援: ケーススタディ

● 筑波大学

- ピア・チューター
- 定期試験における配慮の依頼
- 視覚障害がある人向けの点字オプション
- 研究個室 (学修支援, 2020)
- 対面朗読室: 対面に、サービスを受けたい人にボランティアが声を出して読む

(障害のある方へ, 2020)

● 同志社大学

- 同志社大学の生徒は精神科医と精神保健相談を求める機会も提供されている

(健康相談・精神保健相談・禁煙支援, 2020)

研究方法

研究調査

参加者

大学生63名

- 日本人の大学生31名 ■ 男子学生12名 ■ 女子学生19名
- アメリカ人の大学生32名 ■ 男子学生11名 ■ 女子学生17名 ■ 中性学生4名

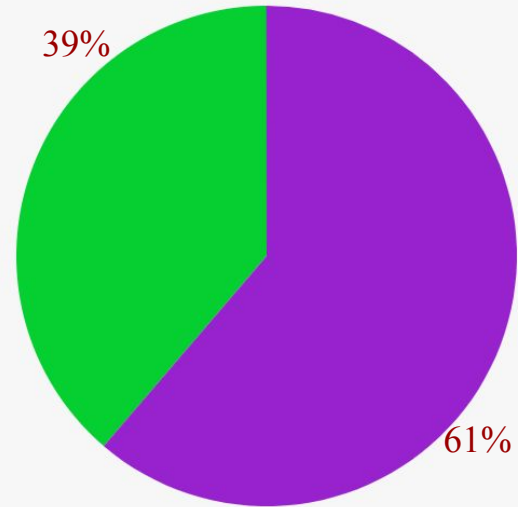
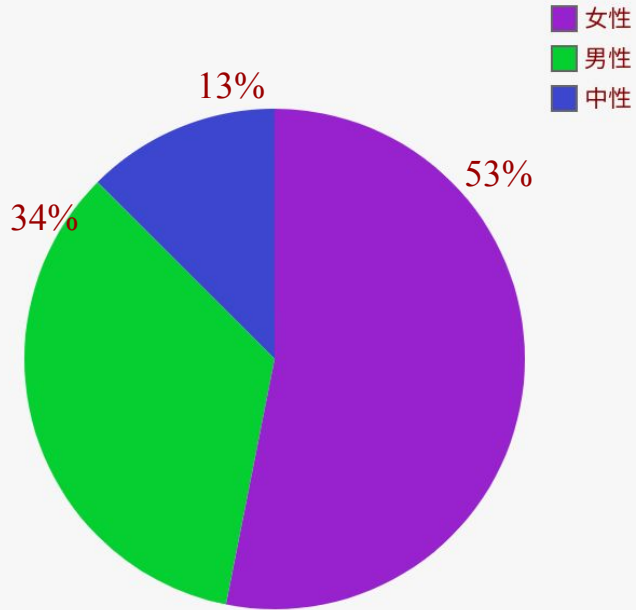
調査方法

- オンラインによるアンケート調査(グーグルフォーム)
- 英語によるアンケート ○ 日本語によるアンケート

性別

アメリカ

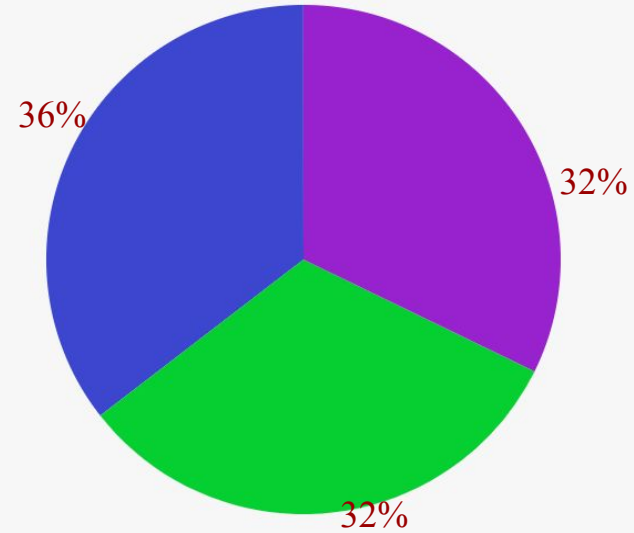
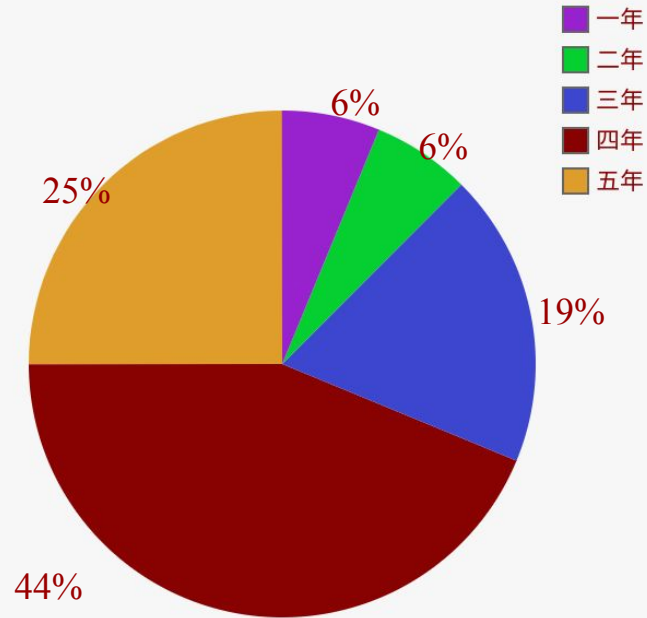
日本



両国とも男性より女性の方が多い。

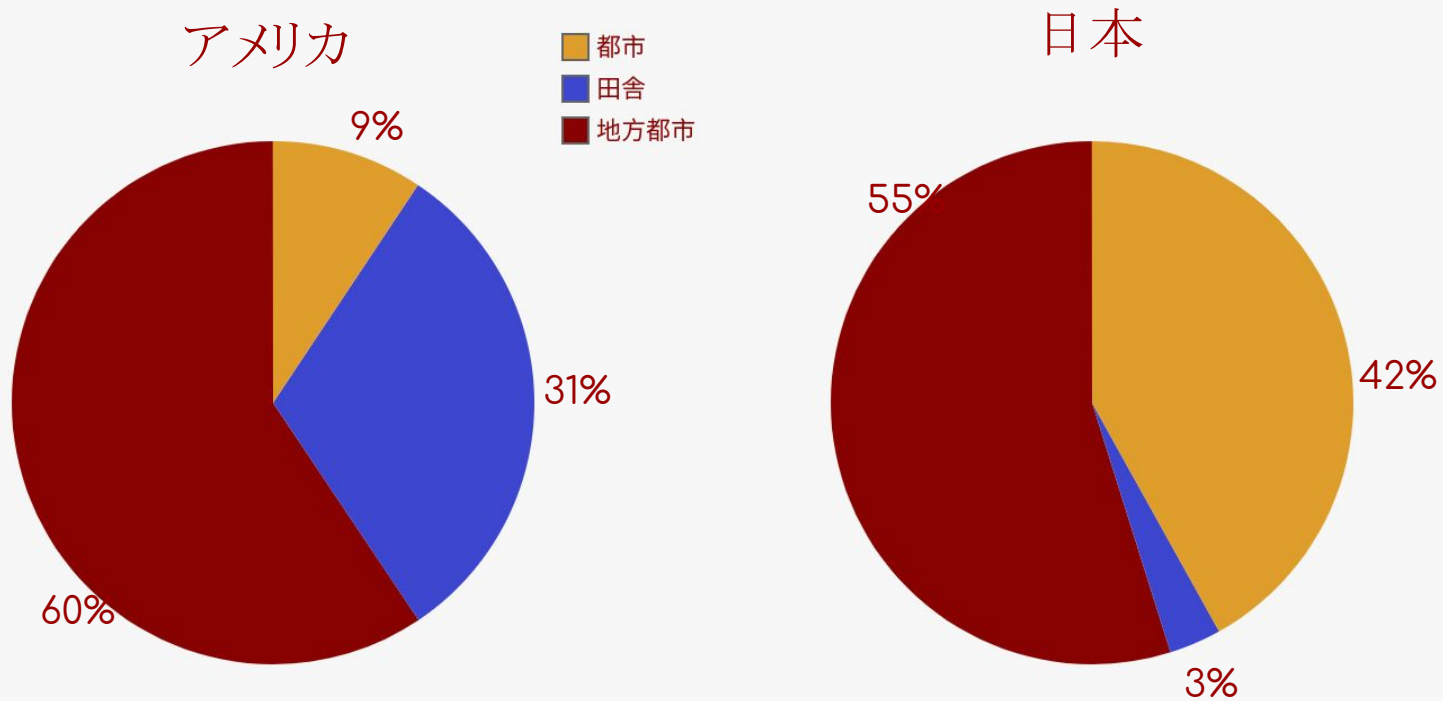
学年

アメリカ



アメリカ人の大半は大学3年生から5年生で、日本人の大半は1年生・2年生だった

現在どんな地域に住んでいますか。



ほとんどの大学生は地方都市に住んでいるが、都市に住んでいる日本人の方がアメリカ人より多い

研究結果

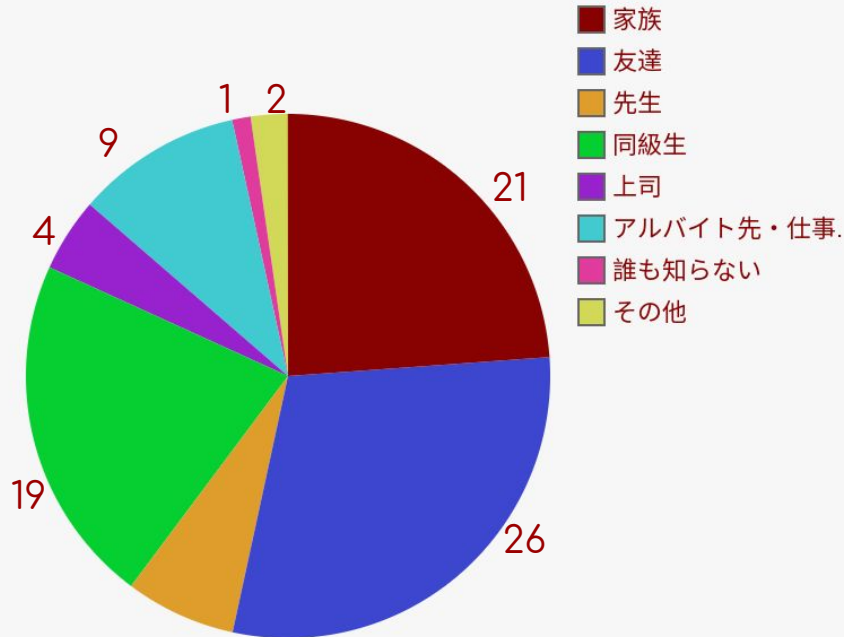
研究質問1

日米の大学生の障害がある人に対する見解はどのようなものか

下記の中で障害を持っている人を知っていますか。

アメリカ

日本

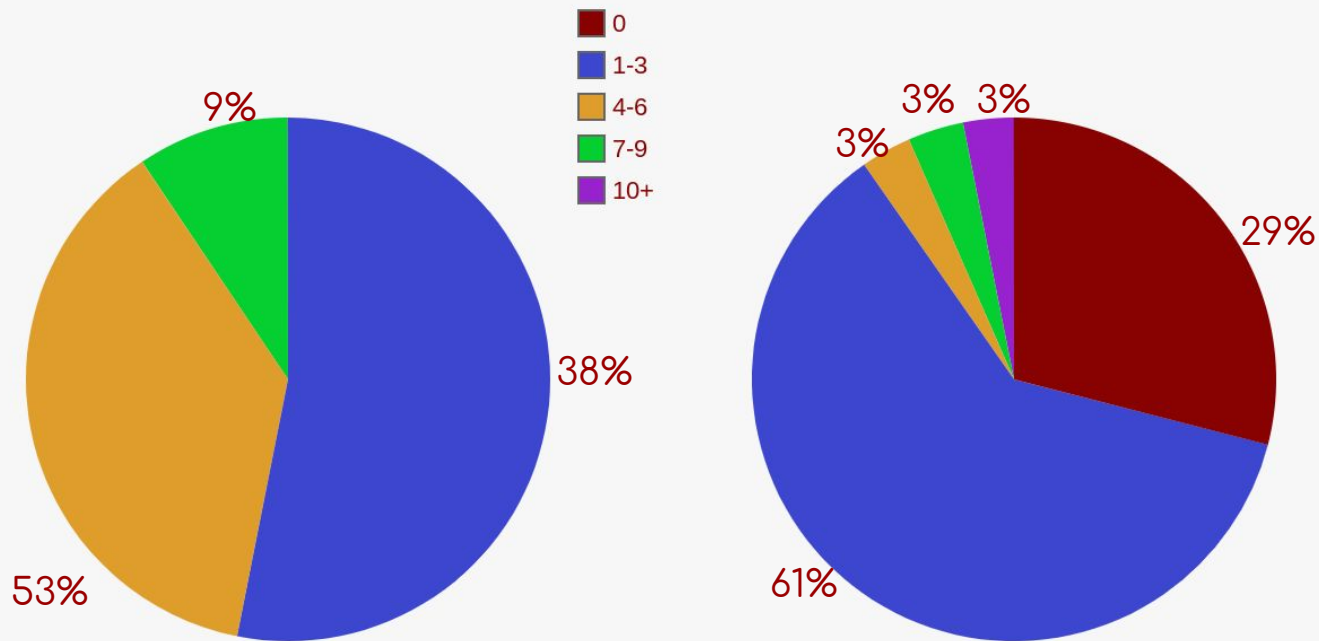


アメリカ人は障害がある家族・友達・同級生を知っている。日本人はほぼ50%の人が障害がある友達を知っているが、**30%人は誰も知らない。**

あなたの周りで障害を持っている人はいますか。

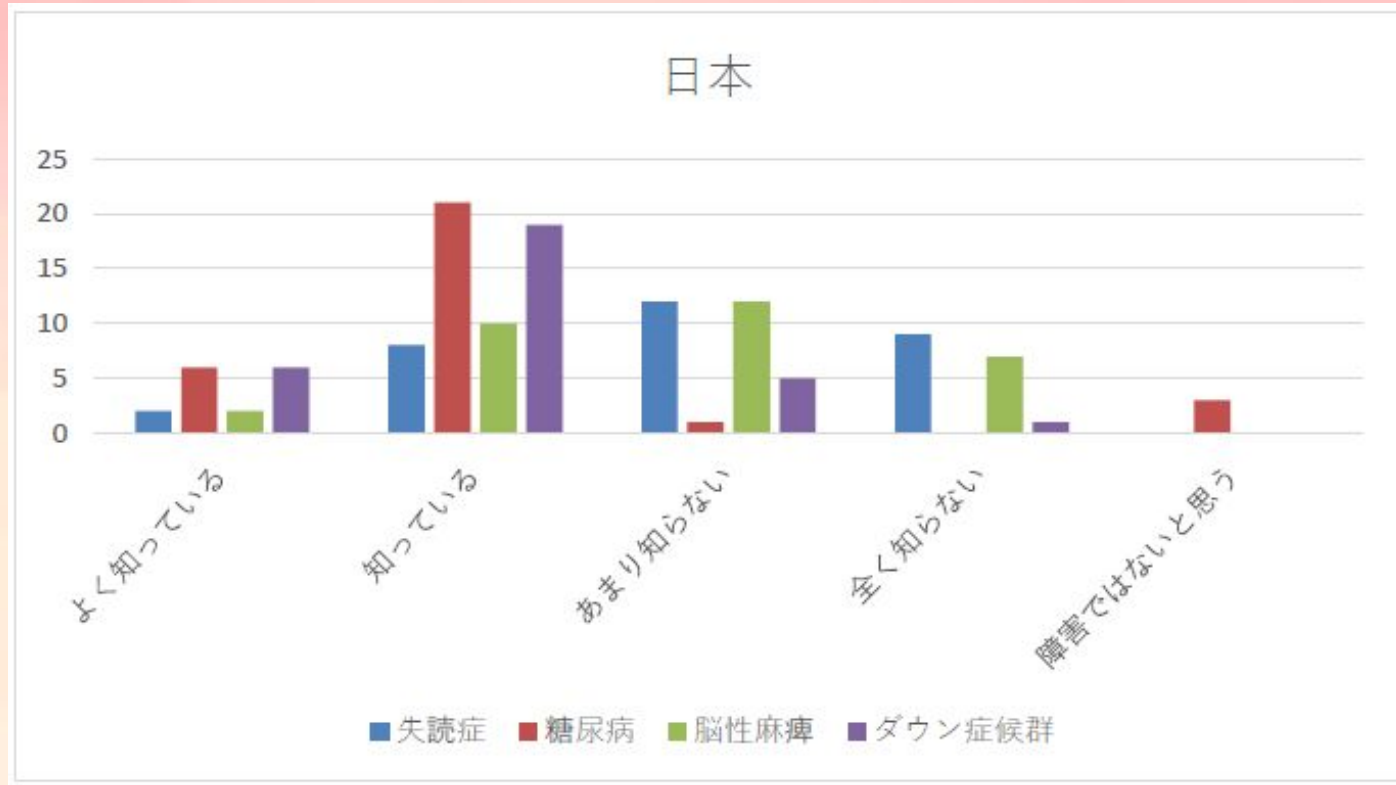
アメリカ

日本



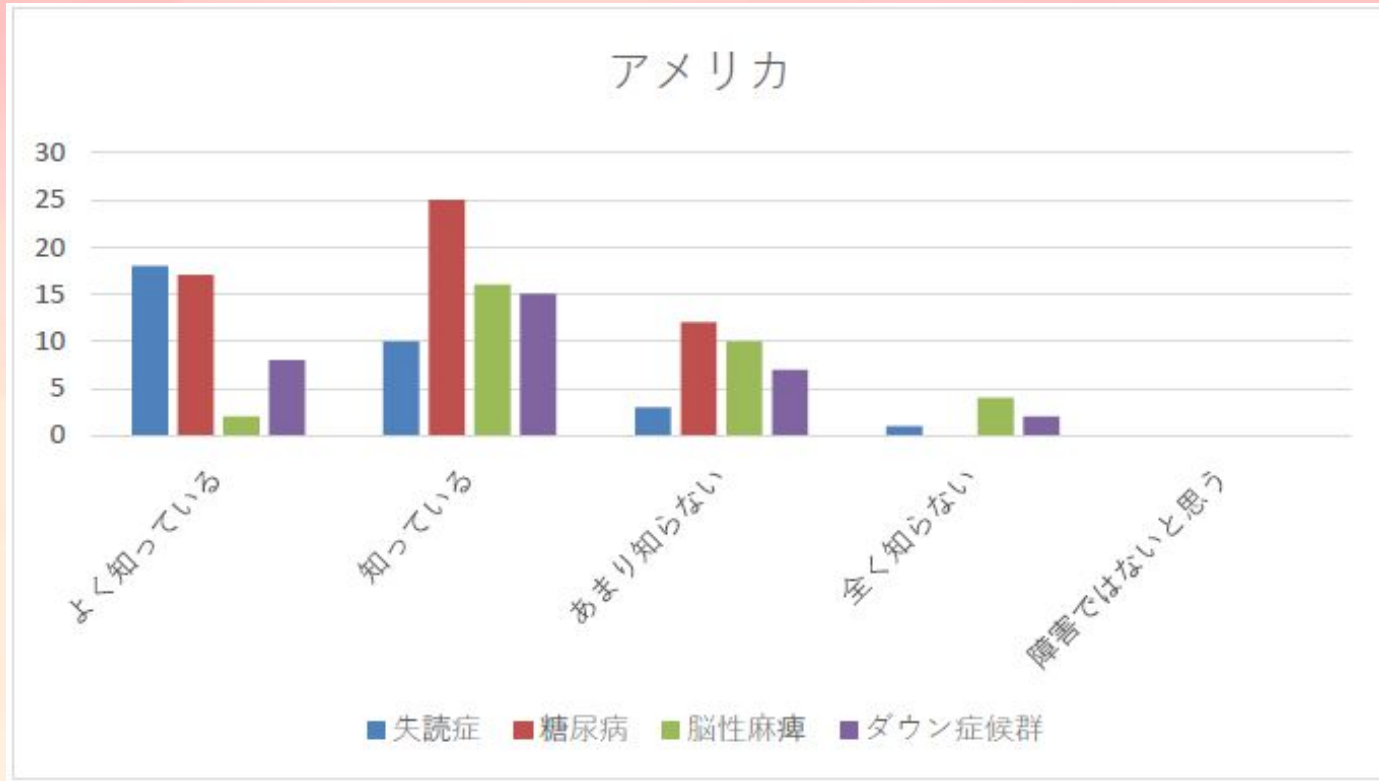
日本人は0人から3人知っている、アメリカ人は1人から9人知っている。

下記の障害の中で知っているものはありますか。



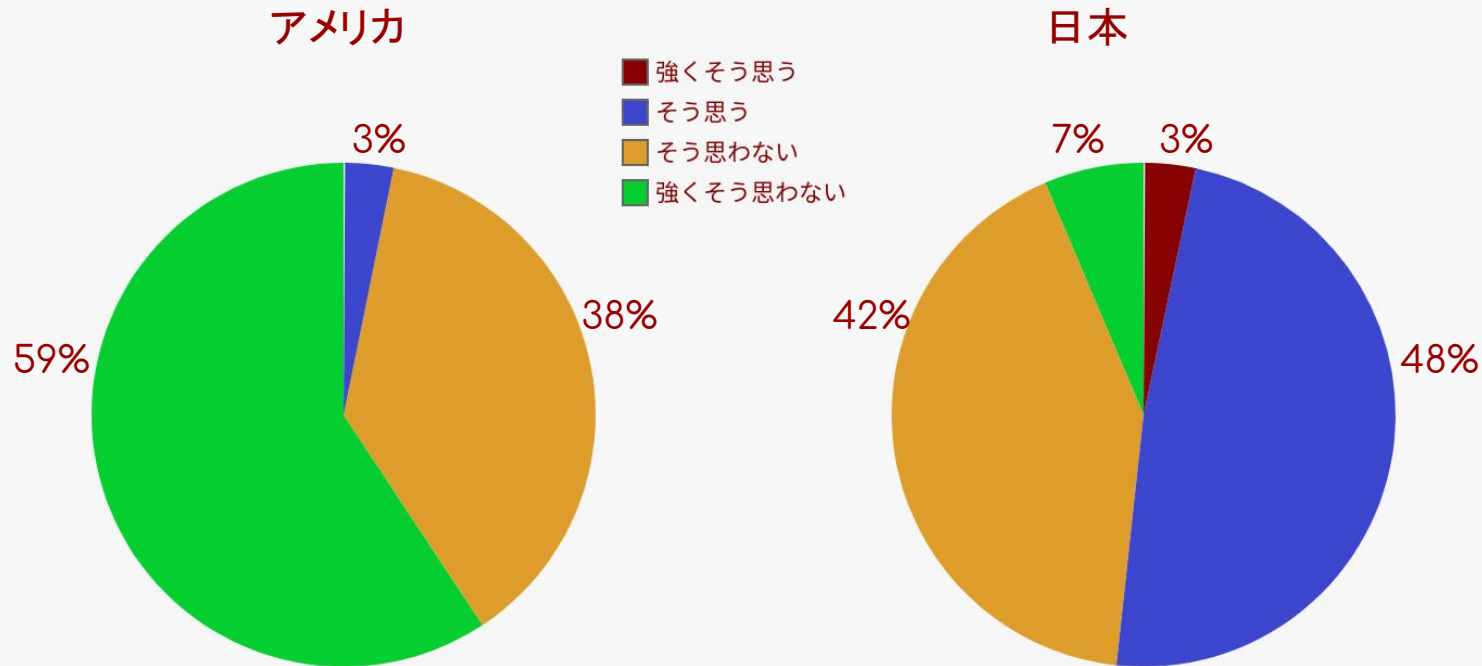
日本人は**糖尿病**が一番よく知っていること、**失読症**が一番全く知らないこと。ほぼ**10%人**は**糖尿病**は障害がないと思う。

下記の障害の中で知っているものはありますか。



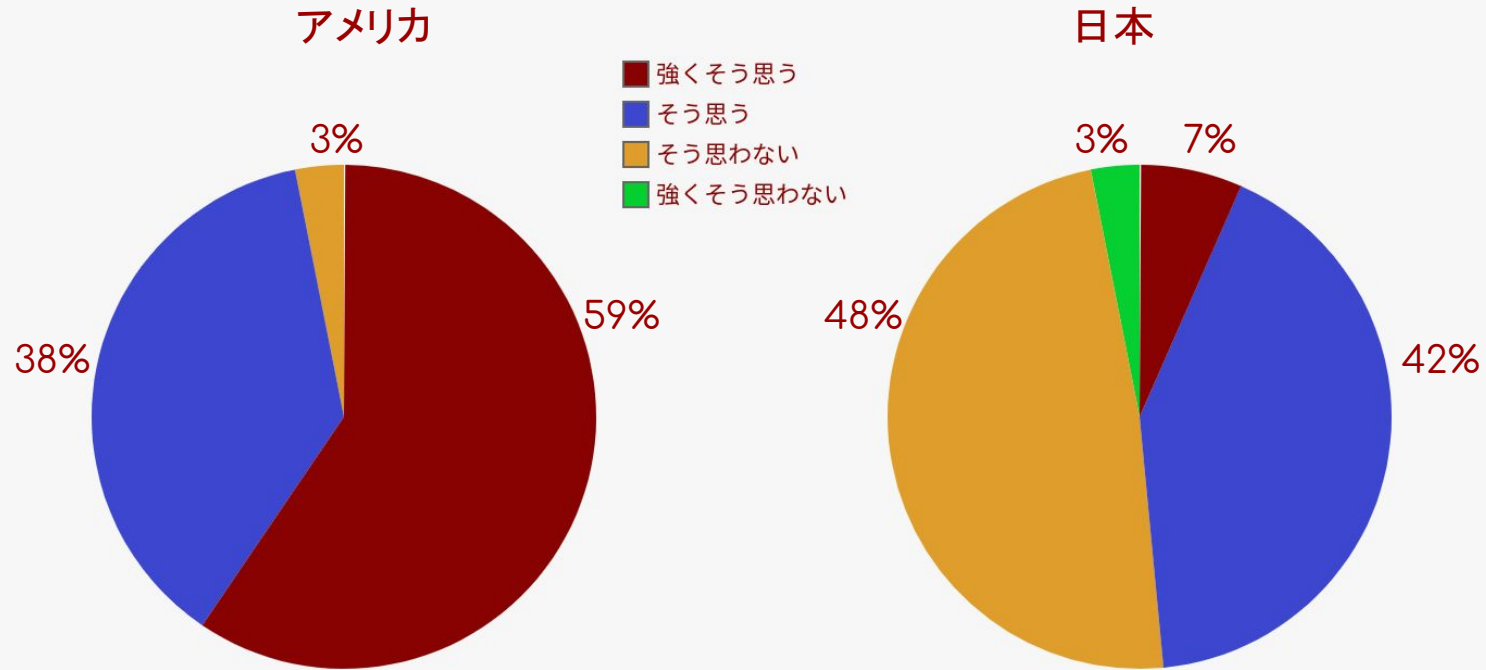
アメリカ人は**糖尿病・失読症**がをよく知っているがこと、**脳性麻痺**はもっとも全く知られていない。アメリカ人は日本人より全部の障害を知っている。

障害がある人は、必要がない限り自分の障害について話すべきではないと思いますか。



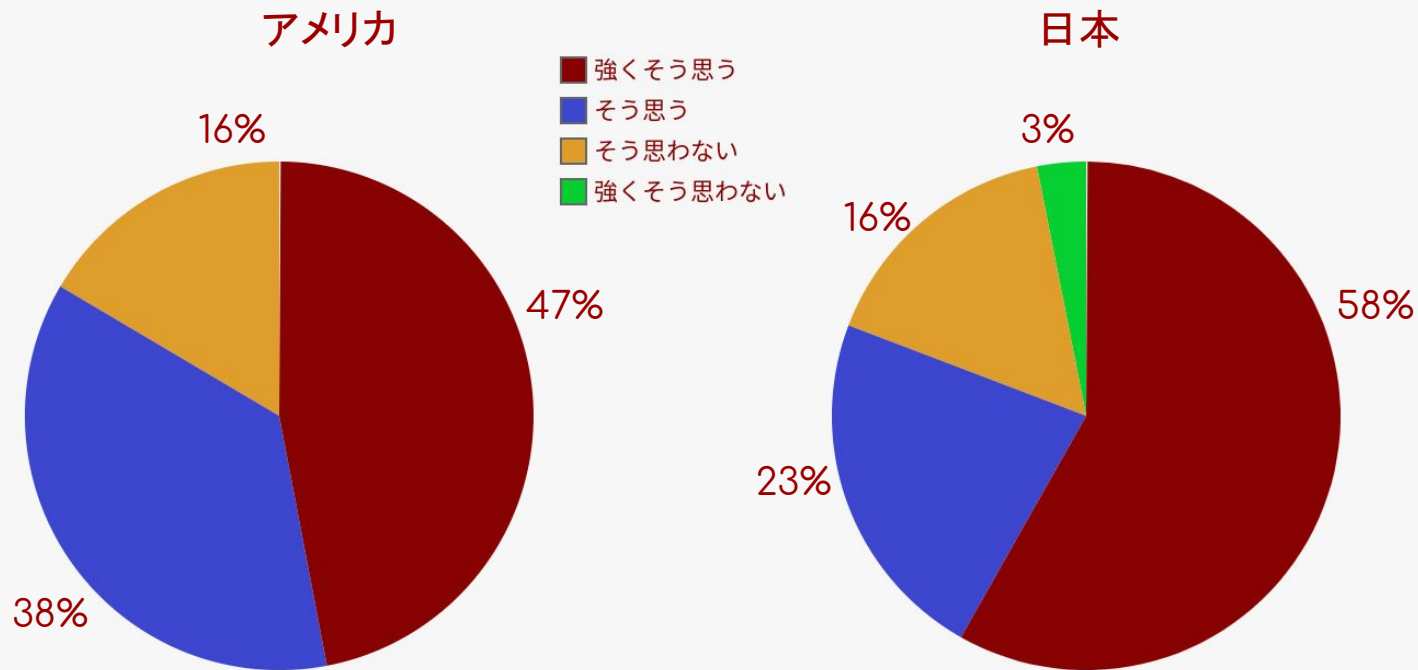
アメリカ人の答えと日本人の答えは異なり、日本人は障害について話してはいけないと思っている。

うつ病や不安障害(不安症)や躁うつ病などの精神病は障害だと思いますか。



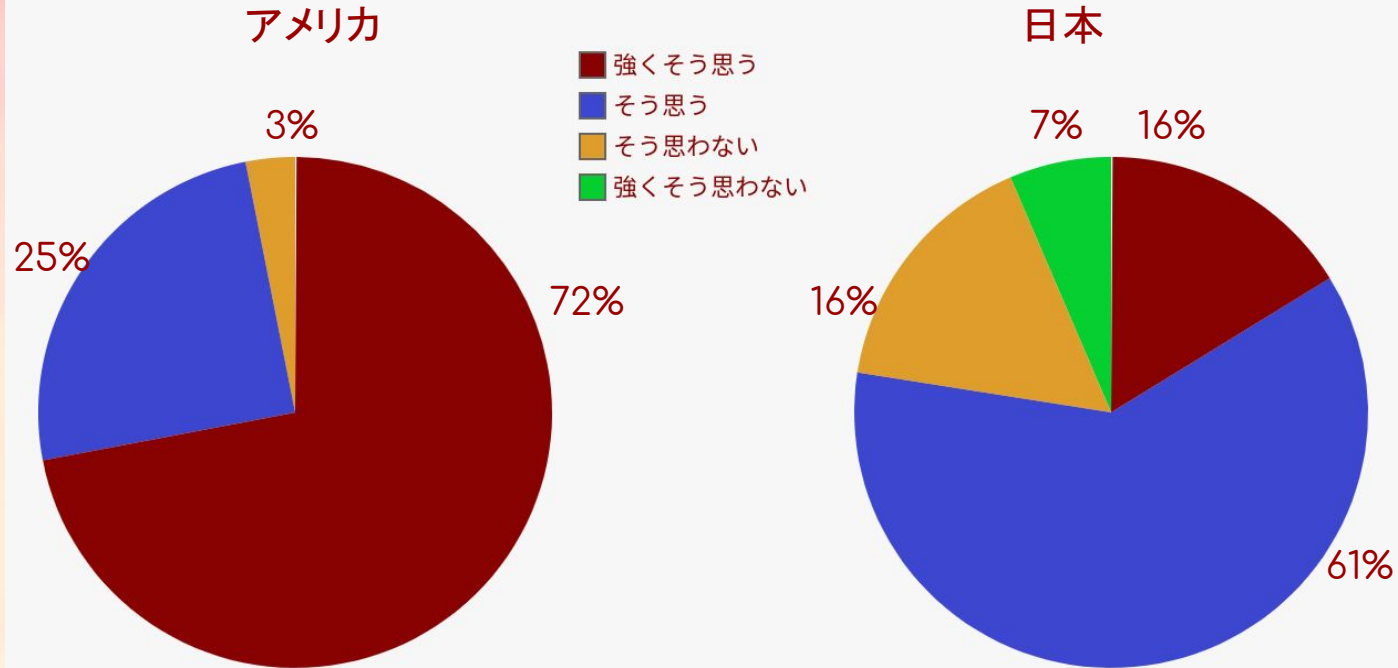
アメリカ人は精神病は障害だと思っている。日本人の約50%が「そう思わない」と答えた。

その人が有能かどうかは障害の有無と関係はないと思いますか。



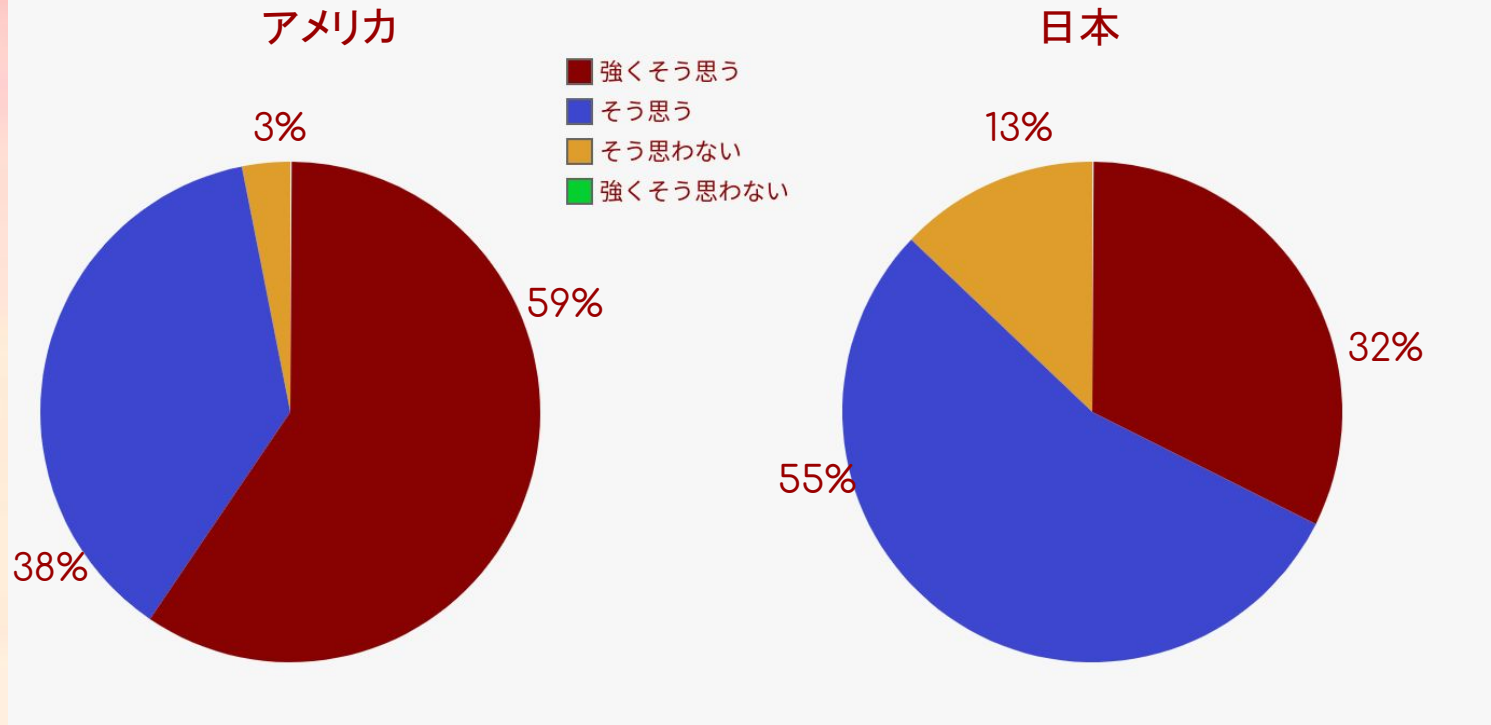
両国ともほとんどの人はその人が有能かどうかは障害の有無と関係はないと思っている。

軽度から中度の障害がある人は充実した生活ができると思いますか。



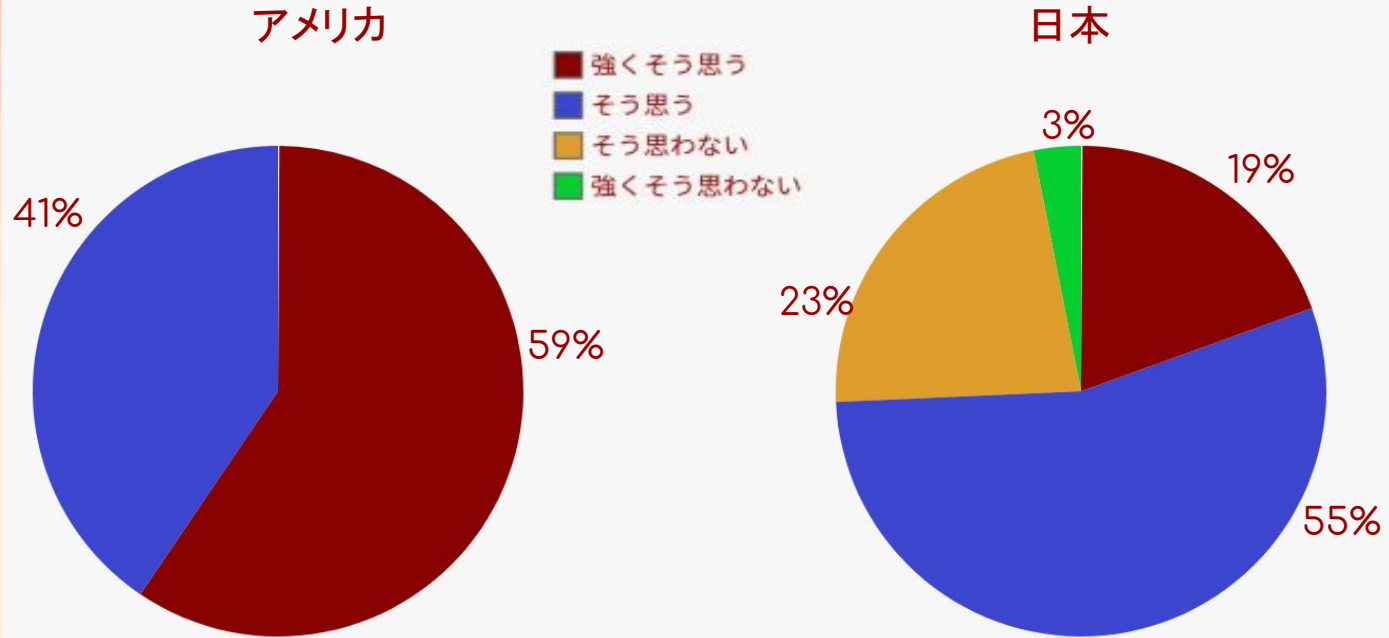
両国とのほとんどの人は障害がある人は充実した生活ができると思っているが、否定的な答えも日本人にもある

ウェイトレスの人がダウン症・脳性麻痺障の人であっても気持ちよくサービスを受けることができますか。



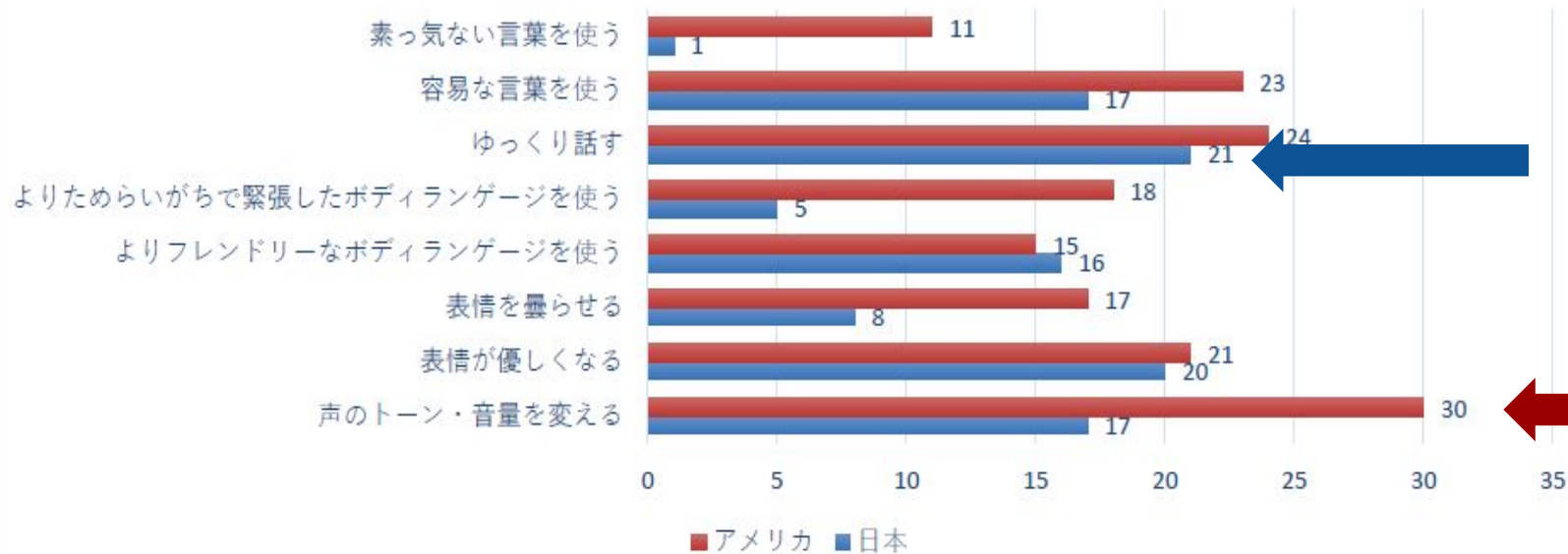
両国とも「ダウン症・脳性麻痺障の人であっても気持ちよくサービス」を受けると思う人は92%を占める。

障害がある人も進んで学校や職場のプロジェクトのメンバーに誘いますか。



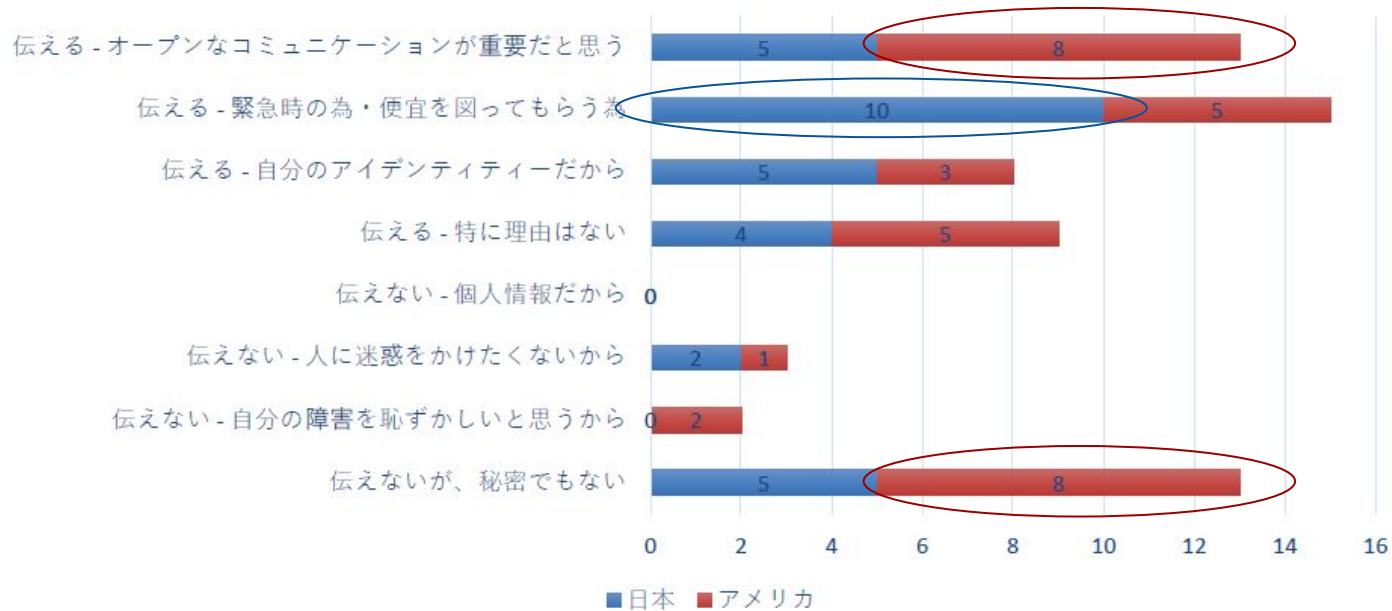
アメリカ人は障害がある人も進んでプロジェクトのメンバーに誘うという回答だったが日本人の場合は26%の日本人は誘わないと回答

ある人が障害がある人と接する際に、以下のような態度をとったことに気づいたことがありますか。



両国ともは障害者と接するさい行動を変えるが、アメリカでは「声のトーン・音量を変える」人が多いのに対し、日本では「ゆっくり話す」が多い

もしあなたに障害があったら、他の人に伝えますか。理由は何ですか。



アメリカ人は「オープンなコミュニケーション」や「誠実」は大事だと思う。日本人は「緊急時の為」や「便宜を図って」は大事だと思う。

研究結果1

- アメリカ人は障害がある人の能力と障害がない能力が同じと思っている。アメリカ人は日本人よりも障害がある人との経験や病気についての知識がある。日本人はそうではないが、アメリカ人は精神疾患は障害だとみなす。
- 日本人は必要がない限り、他人の障害について話題にしない方がいいと考えている。また安全上の理由を除いて自分自身の障害についても話さない方がいいと思っている。
- 日本人は、障害についての経験や知識が少ないために、障害がある人は自分自身の障害を人に話すべきではないと考えていたり、精神疾患や糖尿病は障害とは思っていないのかもしれない。

研究結果

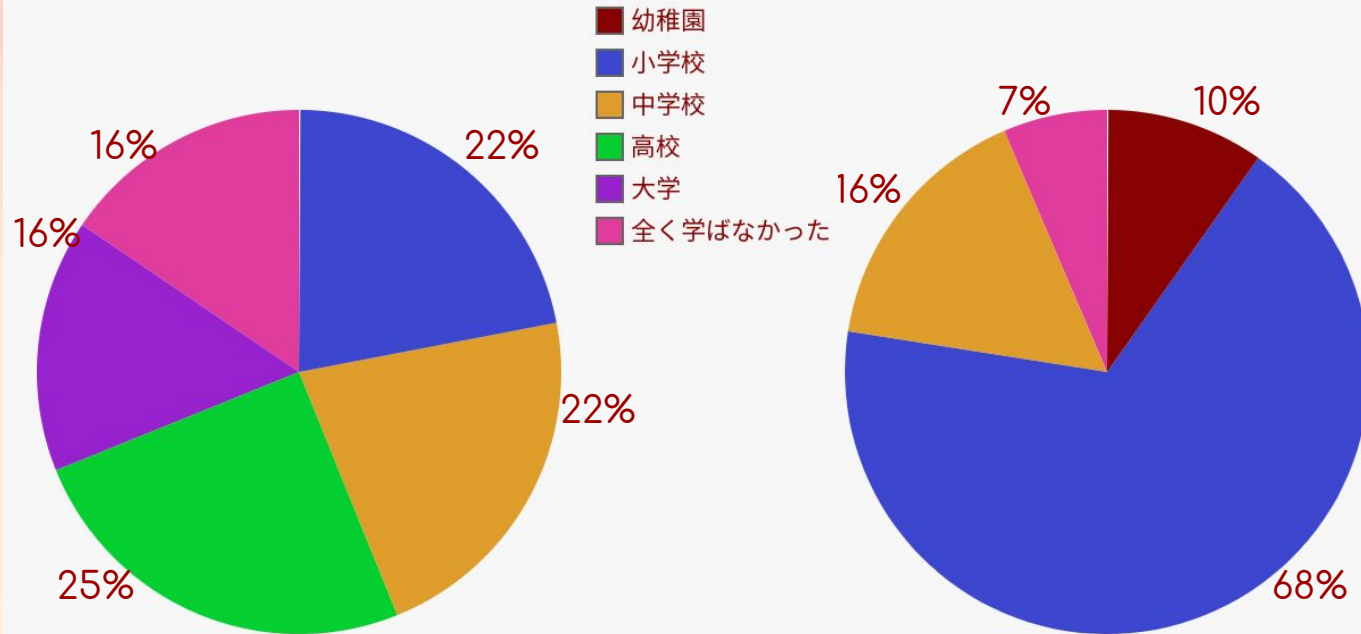
研究質問2

現在障害がある人が利用可能な設備や施設についてどの程度理解しているか

あなたが学校で障害について、最初に学んだのはいつですか。

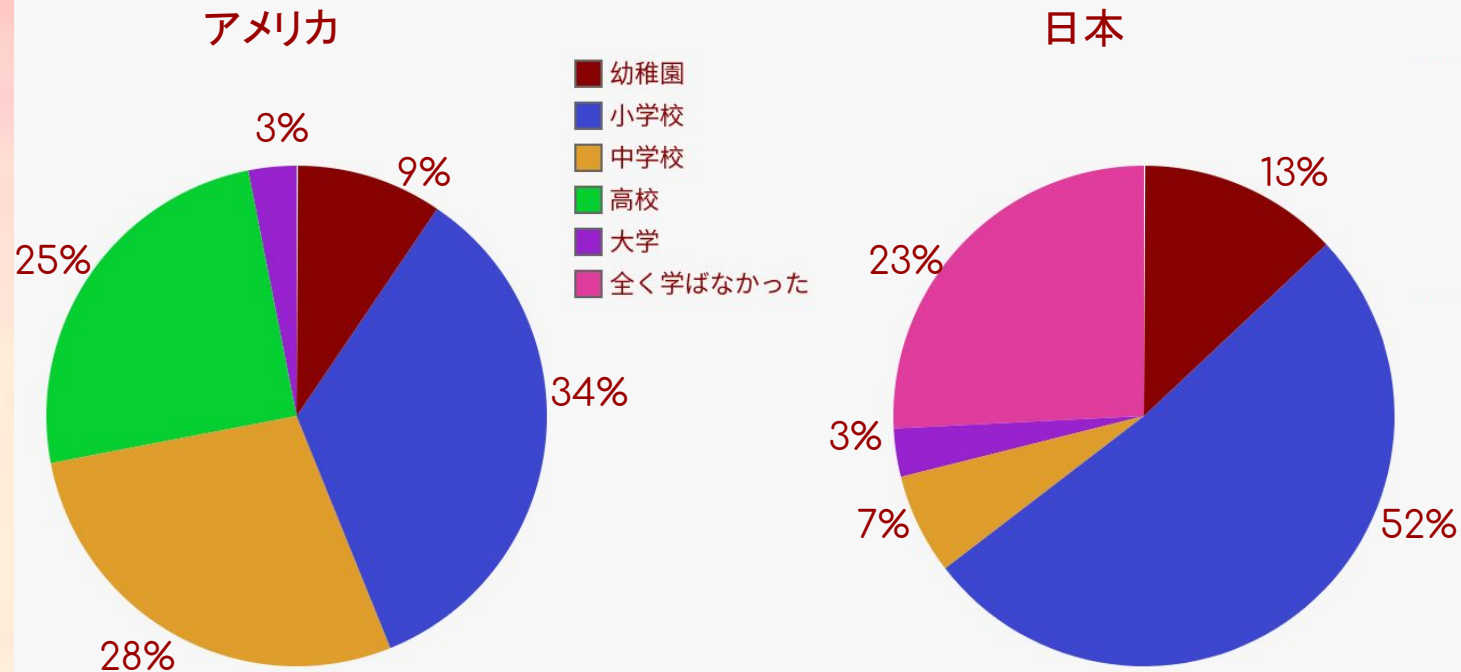
アメリカ

日本



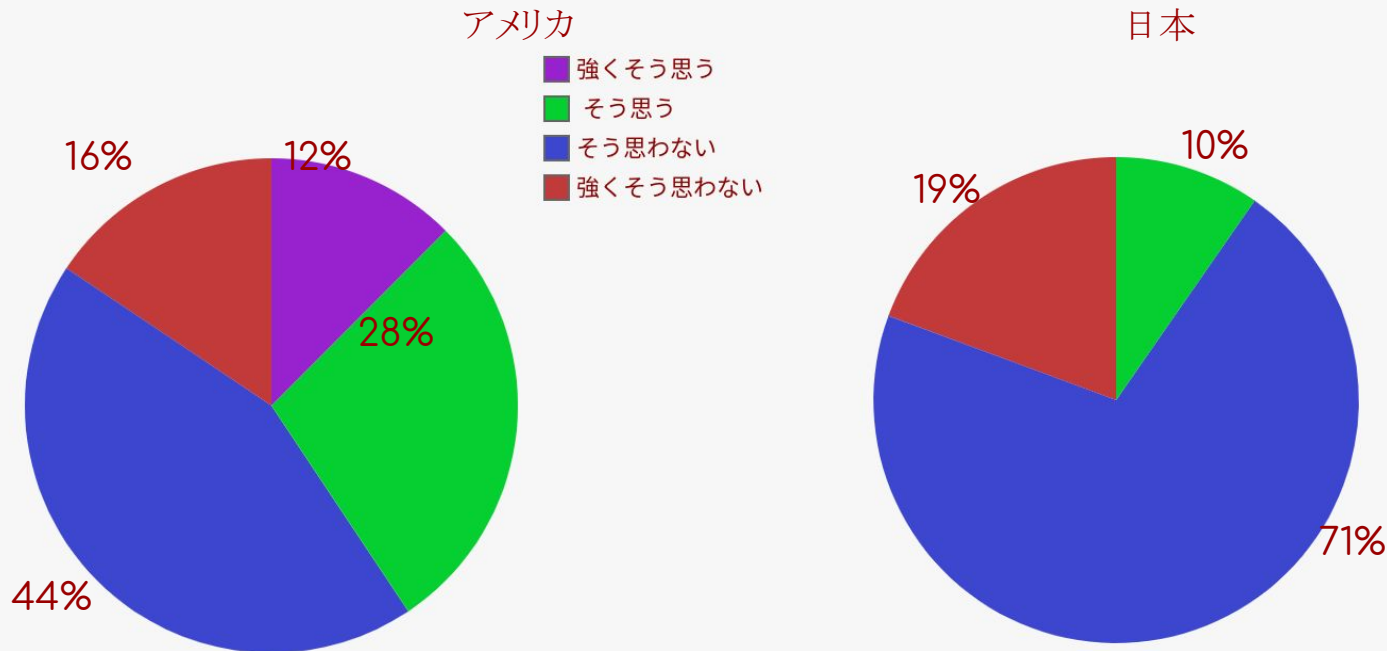
日本人の68%が小学校に於いて学んでいるがアメリカの場合は幼稚園から大学までとすべての学年にわかれた。

あなたのクラスに障害のある同級生がいることに初めて気付いたのはいつですか。



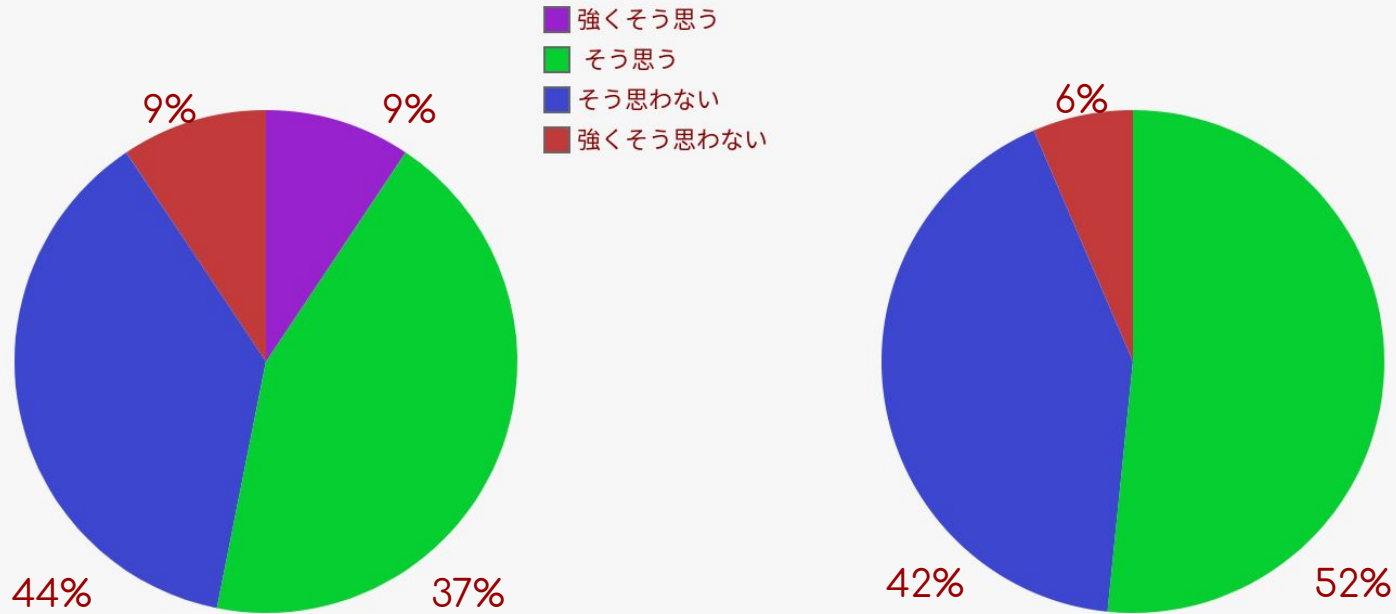
日本では52%が小学校と回答しているが、アメリカの場合は小学校、中学校、高校で障害がある同級生がいることに気付いた。

あなたは障害がある人の為の法律について、「障害者基本法」といった、十分な情報を知っていますか



両国の大学生は障害がある人の為の法律を十分な情報知らない。

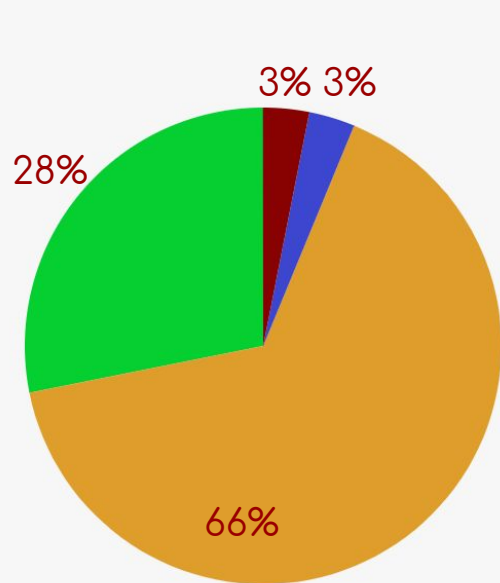
あなたは障害がある人を支援する制度を知っていますか。



両国の回答者は知っている人と知らない人と半分に分かれた

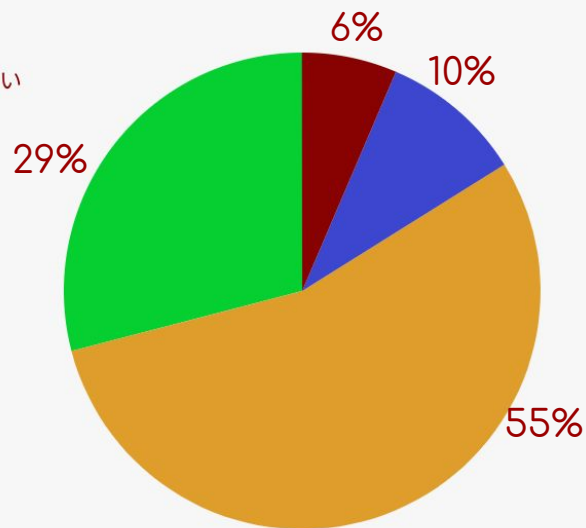
現在の教育の場の障害に関する学習は十分だと思いますか。

アメリカ



日本

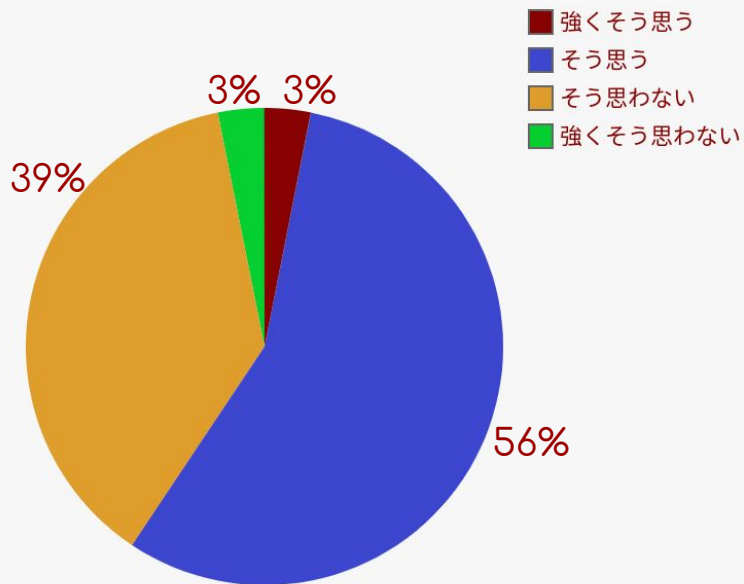
- 強くそう思う
- そう思う
- そう思わない
- 強くそう思わない



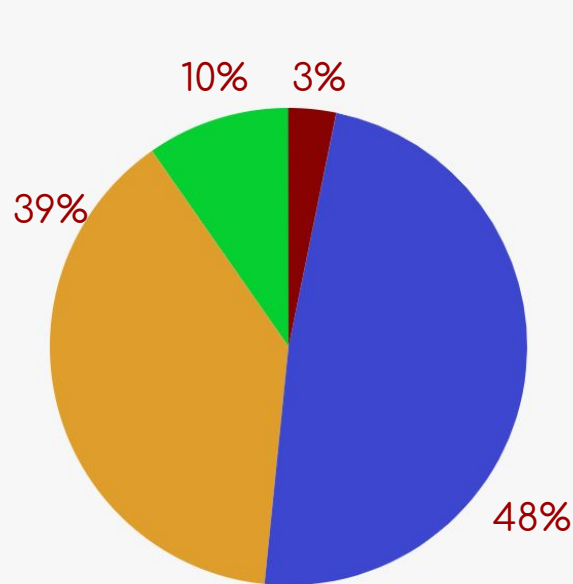
両国の回答は似ているがより多くのアメリカ人は障害に関する学習が不十分と答えた。

あなたの大学は障害がある人に十分な対応をしていると思いますか。

アメリカ

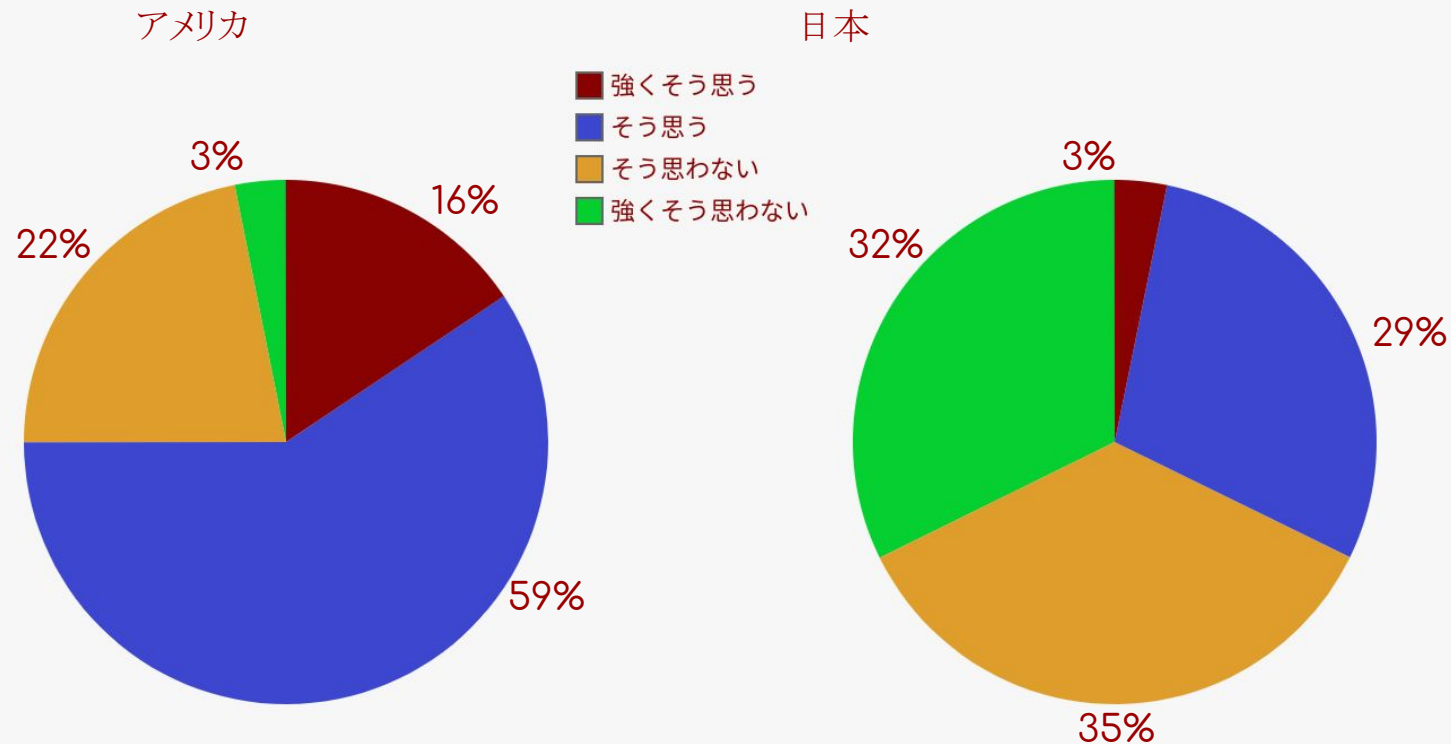


日本



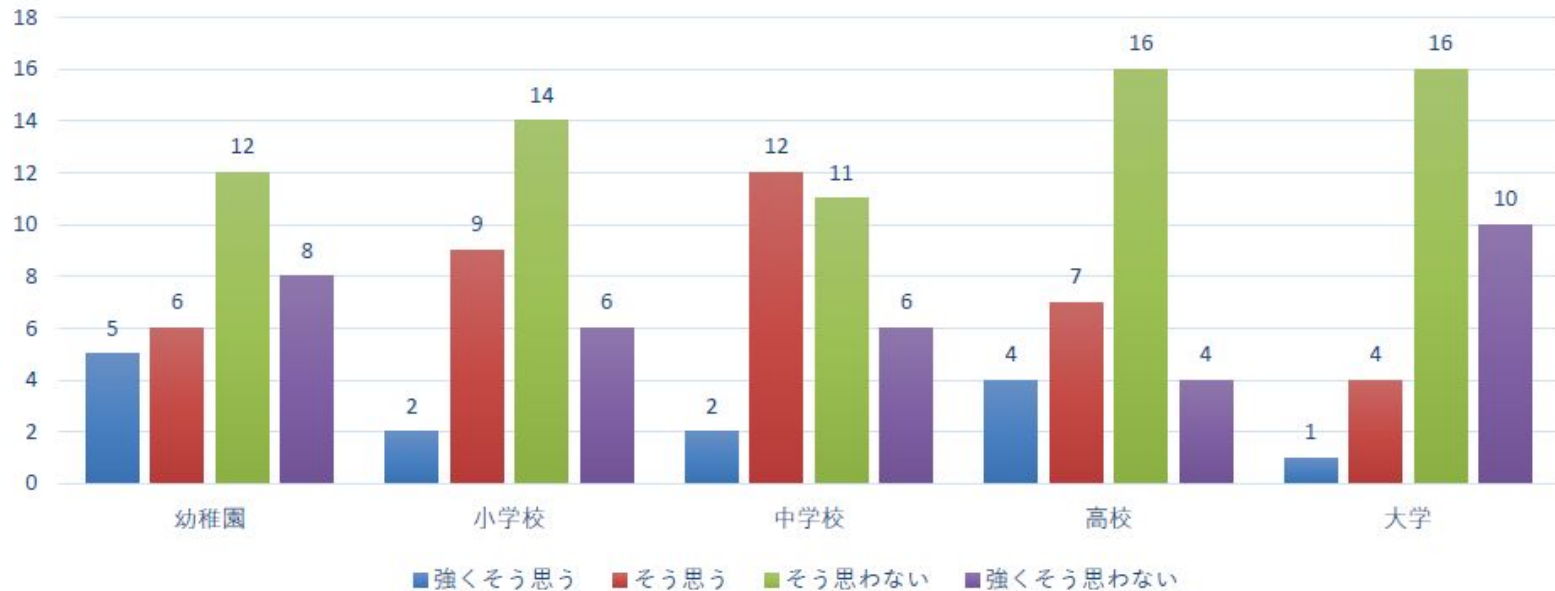
両国とも大学での障害者に対する対応は十分としているとしていないとする見解が分かれた。

あなたの大学は障害のある人に対する対応に関して、誰・どこに連絡をすればよいかについて分かりやすく情報を提供していると思いますか。



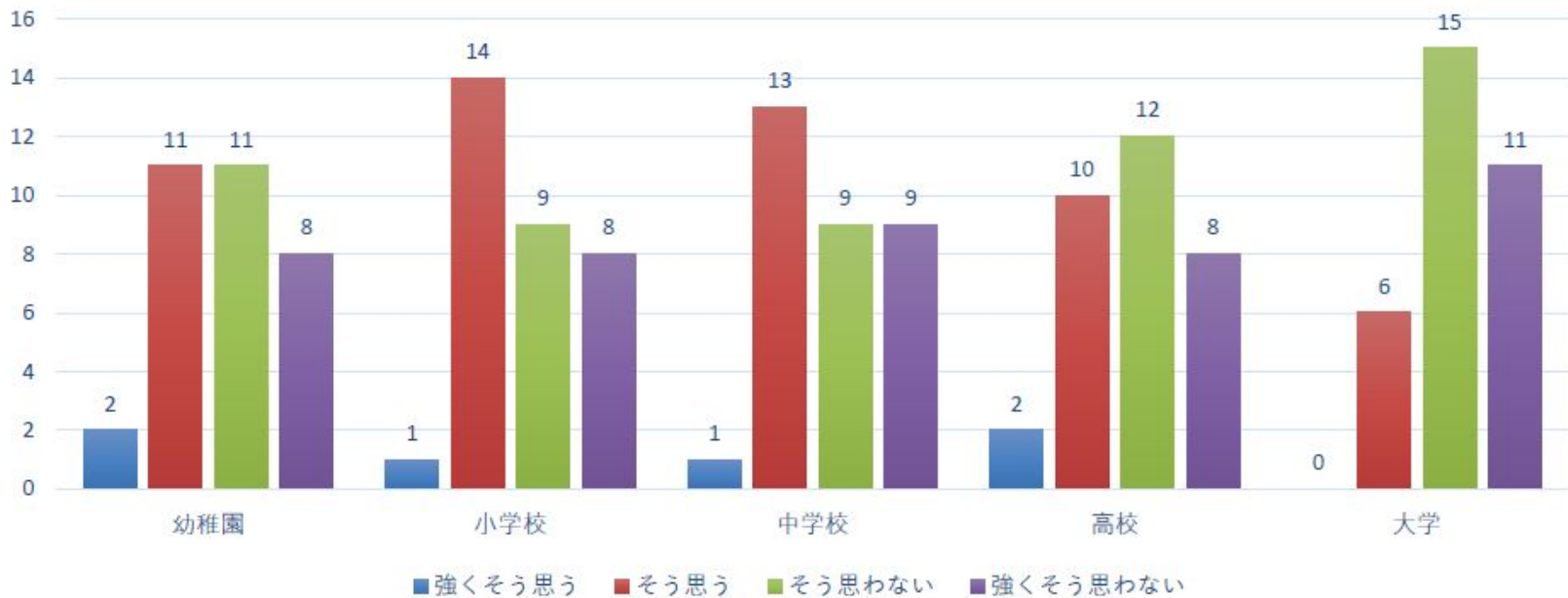
アメリカの大学生は誰に連絡をすれば知っているが、日本人の大学生は知らないと回答しました。

障害がある生徒がより良いサポートを受けるためには、障害のない生徒とクラスを分ける必要があると思いますか。(日本)



日本人の大学生は障害がある生徒と障害がない生徒がクラスを分ける必要がないと答えた。

障害がある生徒がより良いサポートを受けるためには、障害のない生徒とクラスを分ける必要があると思いますか。(アメリカ)



アメリカ人の大学生は障害がある生徒と障害がない生徒がクラスを分ける必要があると答えた。

研究結果2

- アメリカ人は日本人よりも障害について意識が多い。
- アメリカ人は学校で、障害について教育継続的に障害に関する教育を受けているが、日本人は小学校で障害についての教育を受けるだけである。しかし、どちらの国の学生は障害に関する教育は不十分であると思っている。
- アメリカ人は障害がある生徒を分けるべきだと答えたが、日本人はクラスを分けない方がいいと答えた。
- アメリカ人も日本人も、障害がある人の為の法律についてあまり知らない
- アメリカ人ははっきり誰に連絡をすれば知っているが、日本人はそうではない。
- 両国とも大学での障害者に対する対応は十分としているとしていないとする見解が分かれた。

結論

- 日本人は精神疾患を障害とは考えていない。この事が障害を論じるべきではないという考え方も関連しているのではないか。精神疾患を恥とみなす社会通念かもしれない。
- 日本人は小学生の時に障害について正式な教育を受けるが、その後は障害に対する教育は行われなない。このため障害に対する意識は次第に衰える。
- アメリカ人は、特殊教育の徹底により、障害がある生徒を障害がない生徒からでわけても問題ないと考えている。
- アメリカ人は日常的に障害がある人と接する経験があり、特定の障害についてもより多くの知識をもっている。

研究の限界点と将来の課題

- 限界点
 - 参加者数が多くこの結果は一般化されない。
- 将来の課題
 - 他の障害に関する調査
 - アメリカでは障害がある生徒とない生徒とクラスを分けるか必要があるという認識が強いがその理由をさらに追求したい

参考文献

- Academic Accommodations. (2020). Retrieved from <https://csumb.edu/sdr/academic-accommodations>
- ADA AMENDMENTS ACT OF 2008. (2008, September 25). Retrieved from <https://www.eeoc.gov/laws/statutes/adaaa.cfm>
- Christensen, D., Braun, K. V. N., Doernberg, N. S., Maenner, M. J., Arneson, C. L., Durkin, M. S., ... Yeargin-Allsopp, M. (2013, October 1). Prevalence of cerebral palsy, co-occurring autism Spectrum disorders, and motor functioning – Autism and Developmental Disabilities Monitoring Network, USA, 2008. Retrieved from <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/dmcn.12268>
- Down Syndrome Facts: National Down Syndrome Society. (2020). Retrieved from <https://www.ndss.org/about-down-syndrome/down-syndrome-facts/>
- Dyslexia. (2017, July 22). Retrieved from <https://www.mayoclinic.org/diseases-conditions/dyslexia/symptoms-causes/syc-20353552>
- Dyslexia: What Brain Research Reveals About Reading. (2004). Retrieved from <http://www.ldonline.org/article/10784/>
- FAQ. (2020). Retrieved from <https://www.npo-edge.jp/educate/faq/>
- How do you define invisible disability?: invisible disability definition. (2017). Retrieved from <https://invisibledisabilities.org/what-is-an-invisible-disability/>.

参考文献

IDF Western Pacific members. (2020, March 10). Retrieved from

<https://idf.org/our-network/regions-members/western-pacific/members/105-japan.html>

Invisible Vs. Visible Disabilities: 24 Hour Home Care. (2018, March 6). Retrieved from

<https://www.24hrcares.com/14581-2/>

Requesting Accommodations. (2020). Retrieved from

<https://csUMB.edu/sdr/requesting-accommodations>

Statistics About Diabetes. (2018). Retrieved from

<https://www.diabetes.org/resources/statistics/statistics-about-diabetes>

Toyokawa, S., Maeda, E. and Kobayashi, Y. (2017), Estimation of the number of children with cerebral palsy using nationwide health insurance claims data in Japan. *Dev Med Child Neurol*, 59: 317-321. doi:10.1111/dmcn.13278

What is Cerebral Palsy? (2019, April 30). Retrieved from

<https://www.cdc.gov/ncbddd/cp/facts.html>

What is Diabetes? (2016, December 1). Retrieved from

<https://www.niddk.nih.gov/health-information/diabetes/overview/what-is-diabetes>

What is Down Syndrome?: National Down Syndrome Society. (2020). Retrieved from

<https://www.ndss.org/about-down-syndrome/down-syndrome/>

参考文献

- ダウン症児出生数は横ばい傾向、高年妊娠増加も出生前診断の普及が影響か —成育医療センター | Web
医事新報: 日本医事新報社. (2019, August 20). Retrieved from
<https://www.jmedj.co.jp/journal/paper/detail.php?id=12927>
- 学修支援. (2020). Retrieved from <https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/support/support3/>
- 健康相談・精神保健相談・禁煙支援 | 同志社大学 保健センター. (2020). Retrieved from
<https://health.doshisha.ac.jp/consultation/consultation.html>
- おしえて！障害のこと - ATARIMAEプロジェクト. (2020). Retrieved from
<http://www.atarimae.jp/oshiete/2008/09/post-31.html>
- 精神障害とは | 株式会社FVP. (2020). Retrieved from
<http://company.fvp.co.jp/glossary/detail05/>
- 身体障害とは？定義や症状の種類、身体障害者手帳などのサービスについて説明します。 (2019,
October 23). Retrieved from <https://snabi.jp/article/210#9bj20>
- 障害のある方へ. (2020). Retrieved from
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/syougaisya-service#shisetsu>
- 障害者基本法:障害者施策—内閣府. (2004). Retrieved March 3, 2020, from
<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonhou/s45-84.html>

謝辞

- 関根繁子教授
- 齋藤アボット佳子教授
- ダスティン・ライト教授
- 小垣朋子先生
- ガースー・レンアドーさん
- キャップストーンのクラスメイト
- 参加者
- 日本の留学生